

---

# 賄賂/沖銀

深海

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

賄賂／沖銀

### 【Zマーク】

Z6619A

### 【作者名】

深海

### 【あらすじ】

ふらりと現れては、銀時に甘いものを食べさせらる沖田の田舎は？

「へあ～…」

大きく口を開けあくびをし、皿の端に涙を浮かべる銀時。読み終えたジャンプを机に置き頭の後ろで両手を組むと、机に足を上げ肱ぐ。

「はあ…刺激もないし、つまんない毎日だねえ…」

「旦那、邪魔しやすぜ」

扉から覗く沖田の顔を見るなり笑顔になる銀時。

「おっ、沖田クン。なにに、今日は何食わせてくれりやつわけ?」

「やつですねイ…あんみつでもどうですか」

「いいねえ。や、善は急げだよ沖田クン!」

来たばかりの沖田を急かしパーラーへと向かつ。

沖田はフラツと万事屋を訪ねては、銀時のかきな甘味を『』駆走して  
いた。

「いやあ、いつも悪いねえ。俺、沖田クンの事すっかり氣に入っち  
やつたよ」

田の前に置かれたあんみつをさせたり食べべる銀時を、沖田はじつ  
と見つめていた。

「ん？ ビーした沖田クン。食べないなら銀さんが食べちゃいます  
よー」

「今までのは全部賄賂ですか？」

「は？」

「ヤリと笑つ沖田の言葉が理解出来ずに、あんみつを食べる手を止

「俺も旦那の事気に入つてんでさア。だから今までのは賄賂。受け取つてたんだから俺のモンになりなせエ」

「はあー!?

沖田は言い終わると席を立ち、わけがわからずにはじまつていてる銀時の耳元に顔を近付けた。

「今夜、また伺いまわア…」

そい囁きあんみつの代金を置いて店を出る沖田。

銀時はしばらく固まつていたが、思い出したよつて沖田の分のあんみつも食べ始めた。

「ま、全くなんだつつーんだよ。賄賂だなんて知つてたら今までの食わなかつ…いや、食つてたか?」

刺激たっぷりの毎日が銀時を待っている。  
甘い甘い賄賂を持つて。

fin

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6619a/>

---

賄賂/沖銀

2010年10月15日01時01分発行